



教員のための キャリアデザイン

..... 目次

- キャリアデザインとは (P1)
- 教員としての学び (P2)
- 教員として高めたい力 (P3)
- キャリアデザインをしてみよう (P5)
- 学びの記録 (P7)

神奈川県立総合教育センター

平成25年3月

● 自分のキャリアを自分でデザインすること

私たちは、一般的に経歴や職歴、職業上の活動として「キャリア (career)」という言葉を使っていますが、皆さんは、教員としての「キャリア」をスタートしたところです。これから、自身の「キャリア」をどのように形成し発達させていくか、その設計図は今のところ空白です。将来、よりよい教員をめざすなら、3年後、10年後、20年後の自分の姿を思い浮かべ、一つの目標として設定することが大切です。

そこで「キャリアデザイン」です。「キャリア」を「デザイン」するとは、未来の自分の姿を描き、自分の人生における仕事の中身を自分で作り上げていくということです。初任者研修を受講するにあたって、このリーフレットを活用し、自分の「キャリアデザイン」にチャレンジしてみましょう。

● 教員のキャリアデザインは学ぶことから

教員の仕事は、どのように作り上げていくとよいのでしょうか。

教員は、教育基本法（第9条）や教育公務員特例法（第21条）などにおいて、絶えず研究と修養に努めることが義務づけられています。教員として、学び続けることや学ぶ楽しさを感じるものが何よりも大切だということです。教員に学び続ける力が身に付かなければ、児童・生徒の学ぶ力を育てることはできません。教員のキャリアデザインとは、言い換えれば、自己を高めるための学びの計画ということになります。

また、教員にとって、職場の中の学び合いや協働を通して得ることが多くあります。学年や教科の話し合いの中で、また、先輩の教員との語らいや若手教員チームの活動の中など、様々な場面で学び合いや協働がうまれるはずで、そうした機会は自己を高めるためにも、貴重な機会となります。積極的に参加してみましょう。

● めざすべき教職員像 ～「教職員人材確保・育成基本計画」（平成19年10月神奈川県教育委員会）から抜粋～

【人格的資質・情熱】 教職員としての人格的資質・教職への情熱

- ◎ 豊かな人間性と社会性、高い対人関係能力とコミュニケーション能力をもっている
- 子どもへの教育的愛情と責任感、教職に対する使命感と誇りをもっている
- 高い倫理観をもち、公平・公正に行動できる
- 変化に対応し、学び続ける向上心をもっている

【課題解決力】 子どもや社会の変化による課題の把握と解決

- ◎ 子どもをよく理解し、多様な教育的ニーズに対して適切に対処・指導できる
- 得意分野をもち、個性豊かで、連携・協力しながら指導できる
- 豊かな創造力をもち、新たな課題へ積極的に挑戦する意欲や実行力をもっている
- 教職員全体と協力し、学校全体を意識しながら組織的に取り組むことができる
- 保護者、地域の人々と協力して取り組むことができる

【授業力】 子どもが自ら取り組む、わかりやすい授業の実践

- ◎ 子どものやる気を引き出し、意欲を高めることができる
- ◎ わかりやすい授業の実践ができる
- 高い集団指導の力をもち、望ましい学級づくりができる
- 授業研究を生かした校内研修に進んで取り組むことができる

* ◎は、「教育に関する学校関係者向け意識調査結果」（平成17年神奈川県教育委員会）において、保護者、学校評議員が教職員に望む割合の高かった項目

学び続けるための3つの手立て

1 SD(Self Development 自己啓発)

自分の良さを伸ばそう、自分自身を成長させようという意志を持つことが肝心です。日々の実践を振り返り、自らの課題に気づき改善するため、自ら進んで学ぶ機会を大切にしましょう。

文献研究に取り組むことや、教科研究会（教育研究会）等へ積極的に参加すること、大学や民間機関などの講座を受講することなどが考えられます。

- 〈例〉 文献研究：文献等を活用して、教科や教育課題等の研究を行います。
教科研究会：地区や教科ごとの研究会に参加して学びます。
他校の研究発表会：数多くの授業を見て学ぶ機会を積極的につくります。
大学の講座等への参加：大学や民間機関の講座等に参加して専門的な知識や情報を入手します。

2 OJT(On the Job Training 職場内研修)

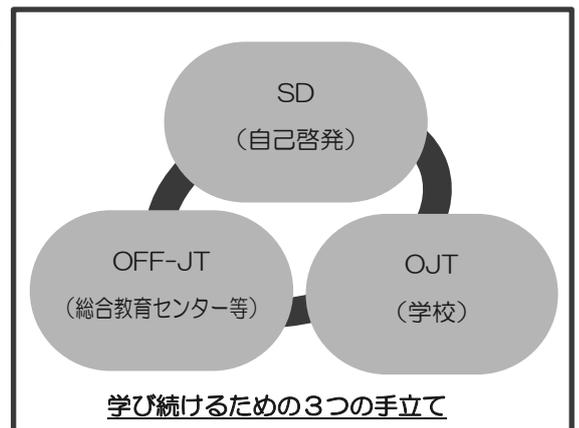
校内において同僚と相互に学びあい、実践力を高めることは、研修の中でも大変効果が高いとされています。授業を公開し授業研究を行うこと、児童・生徒の実態把握や支援を検討するためのケース会議に参加すること、学年や教科での学習指導案・年間計画の検討に参加したりすることなどがこれにあたります。日々の実践の中で自然に身に付くこともありますが、組織的に計画された研修会に意欲をもって参加すれば、多くのものを得ることができるはずです。

- 〈例〉 授業：研修の成果を生かし授業実践に取り組みます。教材研究や学習指導案検討など学年や教科で検討し、学びを深めます。
授業研究会：授業を公開し、協議を通して教員間で授業力を高め合います。
児童・生徒指導：学校の方針を踏まえ、ケース会議等も活用して児童・生徒指導にあたります。
グループ業務や部活動等の指導、保護者や地域等の対応等：先輩や同僚と連携して取り組みながら学びます。

3 OFF-JT(Off the Job Training 職場外機関研修)

経験年数や職務経験に応じて、また、自らの課題に応じて教員としての資質や能力を向上させるために学ぶ機会です。総合教育センター等における研修講座がこれにあたります。こうした研修を受講する際には、受け身の気持ちではなく、課題意識をもって積極的に参加し、何かをつかんで帰ろうといった気持ちで臨みましょう。

- 〈例〉 基本研修：ライフステージに応じた研修体系により研修を実施しています。
自己研鑽のための研修：教員としての専門性を高めるための講座を開設しています。
指定研修：職務・職責に基づき当該の教員が受講する研修です。



- * キャリアアップのための仕組みとして、上位の免許状や他の種類の免許状取得のための制度があります。また、長期間学校を離れて教職大学院や民間企業等で取り組む研修があります。さらには、自己啓発休職の制度を活用して、学校を休職して大学院等で学ぶこともできます（教職経験5年以上）。

教員として高めたい力

教員としてどのような力を身に付けたいのか、その「道しるべ」になるものとして、「教員として高めたい力」をまとめました。

これは、平成19年に策定された「かながわ教育ビジョン」を踏まえ「教職員人材確保・育成基本計画」に示されている「めざすべき教職員像」に基づき、総合教育センターの基本研修体系に合わせて整理したものです。

ファーストキャリアステージ

	1～5年	6～10年	
	<p>出会う ～情報収集～</p> <p>教員をめざす人が、教職と出会い、学校と出会い、教員の仕事に触れることで、教職に対する理解や認識をもつ</p>	<p>学ぶ ～何事にもチャレンジ～</p> <p>教員となった人が、教員の仕事に向き合い、あるべき姿や、役割について学び、信頼される教員をめざす</p>	<p>深める ～めざせスペシャリスト～</p> <p>経験を積み重ねていく中で教員として自立し、教科指導や生徒指導における教師力を深める</p>
人格的資質・情熱	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に対する情熱 ・子どもに対する愛情 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてのマナー ・コミュニケーション力 ・教員としての責任感 ・ストレスへの適切な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力の向上 ・個性や得意分野の伸長 ・教育に対する新たな理論やスキルを学ぶ姿勢
課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に対する課題意識 ・教員の仕事についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを的確に理解する力 ・教育的ニーズの把握 ・さまざまな教育課題の理解 ・「報告・連絡・相談」による課題解決 	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼される学級経営力 ・チームによる課題解決 ・後輩からの相談を受ける役割 ・保護者との協働
授業力	<ul style="list-style-type: none"> ・授業についての理解 ・授業づくりへのチャレンジ 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりの基本の理解 ・教材の工夫 ・教材研究の充実 ・校内授業研究への積極的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上 ・学び合いのある授業の実践 ・校内授業研究での積極的な役割

かながわティーチャーズカレッジ
フレッシュティーチャーズキャンプ

初任者研修講座
1年経験者研修講座
2年経験者研修講座

5年経験者研修講座
(採用6年目に実施)

教員として高めたい力

キャリアアップステージでは、「マネジメントの視点」が必要となってきます。自身の能力や可能性を広げるとともに、学校組織の一員として組織の力を高める意識を持つことが期待されます。リーダーとしての立場や、リーダーを支える立場の両面の役割を担うことが求められます。



- ・リーダーとして学校目標を実現するための具体的な方策を示すことや、担当グループの業務のマネジメントを行う。
- ・フォロワーとして貢献力と提案力を持ってリーダーを支え、チームとしての実践を心掛ける。

※フォロワーとは、単に部下というだけではなく「支える人、協働する人」といった意味です。

キャリアアップステージ

	11～15年	16年～25年	26年～
	<p>広げる ～可能性の追究～</p> <p>マネジメントの視点に気づき、課題を明らかにして、組織的な改善に向けて主体的に取り組むことを目指す。</p>	<p>動かす ～学校全体を見る～</p> <p>学校改善を目指して、主体的に課題解決に取り組み、学校運営に積極的に参画することを目指す。</p>	<p>支える ～文化を創る～</p> <p>教育力継承のために、若手・中堅教員と主体的に関わり、指導・支援をすることを目指す。</p>
人格的資質・情熱	<ul style="list-style-type: none"> ・学年や教科、グループ等での自己の役割への意識 ・リーダーに対する建設的な批判 ・チームへの誠実な貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ・中核的立場としての役割の自覚 ・リーダーとしての使命感や実行力 ・学校改善に向けたチーム意識の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校づくりや学校運営に係る企画運営 ・実践経験からの知識・技術の継承 ・カウンセリングマインド
課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> ・サブリーダーとして目標達成に向けた行動の具体化 ・チームによる課題解決 ・若手教員へのサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとしての的確な状況判断 ・組織を生かした課題解決 ・地域との協働 ・若手教員の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な判断力 ・学校としての課題解決 ・若手教員の育成
授業力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ニーズに応じた授業づくり ・校内授業研究の企画・推進 ・特色ある教育活動の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・模範となる授業づくり ・校内授業研究での指導的な役割 ・特色ある教育活動の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業を究める」取り組みの実践 ・校内授業研究での総括的な役割 ・特色ある教育活動の取り組み

10年経験者研修講座
(採用11年目に実施)

15年経験者研修講座
(採用16年目に実施)

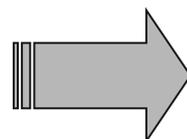
25年経験者研修講座
(採用26年目に実施)

キャリアデザインをしてみよう

1 まずは、なりたい自分「10年後の自分」を考えます。

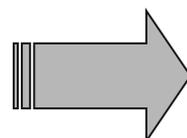
例えば・・・子どもが生き生きと活動できる授業の工夫ができている
 生徒指導では、皆に頼りにされる存在になっている
 保護者からの信頼を得て、学級経営をしている
 学校行事を中心になって動かしている

etc.



2 次に、今の自分にできていることを考えます。

例えば・・・教科指導はどうですか？
 生徒や保護者、同僚とのコミュニケーションはどうですか？
 常に新しい情報を収集していますか？

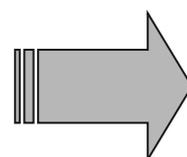


〈簡易チェックシート〉

観点	チェック項目	自己チェック
人格的資質・情熱	教員としての責任を自覚し、校務に対して意欲的に取り組んでいる。	
	社会人としてのマナー、一般常識が身に付いている。	
	同じ世代の同僚教員と良好なコミュニケーションがとれている。	
	年長の教員や管理職への報告や相談、日頃の会話等を円滑に行っている。	
	さまざまなストレスへの対処を適切に行っている。	
課題解決力	児童・生徒の理解に努め、児童・生徒と良好なコミュニケーションをとっている。	
	担任として、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、ていねいな学級経営に取り組んでいる。	
	保護者や地域住民との対応を適切に行っている。	
	校外で行われる各種機関の研修講座等に自主的に参加している。	
授業力	授業に意欲的に取り組んでいる。	
	教材・指導法に関する研究や工夫、授業計画の作成や授業準備等を進んで行っている。	
	校内で行われる授業研究や不祥事防止等、さまざまな研修に前向きな姿勢で参加している。	

3 そして、「10年後の自分」になるために、これからすべきことを考えます。

例えば・・・コミュニケーションスキル向上のためのセミナーに参加する
 発達障害の特性について理解するため研修講座に参加する
 理科の実験に生かす情報を収集するため専門書を読破する



キャリアデザインをしてみよう

プロフィール

担当学部・学年

グループ・分掌

担当教科

なりたい自分、めざしている教員像

自分の強み、得意なこと、できていること

自分の弱み、苦手なこと、課題と思うこと

具体的な目標

行動計画

記入日 【 年 月 日】

研修講座で学んだことの記録

研修講座 受講の記録（例）

〈講座の振り返り〉

- 研修講座を受講したら、学んだことを記録しておきましょう。
- 右のシートを使って、研修講座の内容や新たな気づき、発見などを記しておく、受講した内容を振り返りやすくなります。
- 記入した様式をファイリングしておき、学びの積み重ねを意識したキャリアデザインに活用してください。
- 「初任者研修講座」だけでなく、「自己研鑽のための研修講座」や「外部機関の研修講座」、『研究会への参加』など、自らの学びの記録用紙として活用しましょう。

*この様式は、総合教育センターのホームページからダウンロードできます。

研修講座名	初任者研修講座〇〇学校（△△）		
日時	年 月 日（ ）	会場	
ねらい	○研修の要旨及び内容 （具体的に記入してください）	○研修をとおして気づいたことや学んだこと	
	【資質】社会人としてのマナーを確認し、生徒、保護者、職員とのより良い関係を構築するために、コミュニケーション能力の向上を図る。		
	【授業力】学習指導要領のねらいを踏まえ、学習指導と評価の関連について理解し、授業づくりの基礎・基本を身に付ける。		

提出は不要です

総合教育センターの支援

情報がほしい時

研修講座の案内や授業づくりに役立つ様々な資料等、総合教育センターのホームページで見ることができます。カリキュラム開発センター（善行庁舎2階）や教育図書室にも、たくさんの資料があります。

いろいろな授業が見たい時

授業研究ライブラリーとして、県内公立学校の先生の授業を撮影したDVDの作成と貸し出しをしています。一部のDVDについてはインターネットでの配信もしています。

ちょっと悩んで相談したい時

元気サポート相談を利用してください。

- ✿ 面接相談・・・教育相談センター（亀井野庁舎）にて要予約 ☎ 0466-81-8521
- ✿ 電話相談・・・☎ 0466-81-0185 土・日・祝休日（8:30～17:15）も受付
（12月29日～1月3日を除く）匿名での相談可